

イスラエルの人々④

□イスラエルの人々の信仰の手本

民はみな、雷鳴、稲妻、角笛の音、煙る山を目の前にしていた。民は見て身震いし、遠く離れて立っていた。彼らはモーセに言った。「あなたが私たちに語ってください。私たちは聞き従います。しかし、神が私たちにお語りになりませんように。さもないと、私たちは死んでしまいます。」

それでモーセは民に言った。「恐れることはありません。神が来られたのは、あなたがたを試みるためです。これは、あなたがたが罪に陥らないよう、神への恐れがあなたがたに生じるためです。」 (出 20：18～20)

□これまでの振り返り

1. アブラハム契約・・・神は、全人類の中から一人の人、アブラハムを召し出し、彼に3つの約束を与えた。**土地の約束、子孫の約束、祝福の約束**である。神はその約束を確かなものとして、アブラハムと契約を結ばれた。3つの約束のうち、土地と子孫の約束はイスラエル民族だけに対するものであるが、これらを通してアブラハムは復活信仰に導かれた。
2. 3つ目の祝福の約束は、イスラエル民族だけでなく、全人類に関係する。「地のすべての部族は、あなたによって祝福される」。その祝福とは、アブラハムが信じた**復活**である。アブラハムの信仰にならい、神には死者を生かす力があると信じるなら、全人類、だれであっても神から復活の祝福を受け取ることができる。
3. アブラハム契約が必ず成ると信じる信仰は、復活を信じる信仰でもある。この信仰が、アブラハムからイサク、そしてヤコブ（神からイスラエルという名をいただいた）、さらにヤコブの子らへと継承された。
4. ヤコブの子孫であるイスラエルの人々は、エジプトで増えて一つの民族としての規模にまでなったが、エジプト王に仕える奴隷の民となってしまった。神はアブラハム契約に基づき、モーセを遣わして人々をエジプトから救出した。
5. イスラエルの人々① 紅海を渡る
エジプト王ファラオと彼の家臣たちはイスラエルを解放したことを後悔し、戦車隊を召集して追跡した。紅海に面した海辺に宿営していたイスラエルの人々は、突如エジプト軍が迫り来るのを見て動転したが、主が海の水を分けて道を開いたので、イスラエルの人々は、神を信頼する信仰によって、右と左に水の壁を見ながら、紅海を渡った。
6. イスラエルの人々② 律法授与前の準備（天から降るパン、マナにより養われる）
(1) **マラ**・・・紅海を渡った後、いったん北上して、シュルの荒野へ。三日間、荒野を歩いたが、水が見つからなかった。やっと水を見つけたが、その水は苦く

て飲めなかった。それで、その場所を「マラ（苦い）」と呼んだ。民はモーセに「われわれは何を飲んだらよいのか」と不平を言った。モーセが主に叫ぶと、主は彼に一本の木を示した。彼がそれを水の中に投げ込むと、水は甘くなった。

(2) エリム・・・マラからシナイ半島西岸を南下して、エリムへ。そこには、十二の水の泉と七十本のなつめ椰子の木があった。そこで、民はその水のほとりで宿営した。

(3) シンの荒野・・・エリムを出発して、シナイ半島中央部に位置するシンの荒野へ入った。エジプトを出てから、ちょうど1か月。手持ちの食糧が尽きて、民はモーセに不平を言った。主はモーセに告げられた。「わたしはイスラエルの子らの不平を聞いた。彼らに告げよ。『あなたがたは夕暮れには肉を食べ、朝にはパンで満ち足りる。こうしてあなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であることを知る。』」

① その日の夕方、うずらが飛んで来て宿営をおおった。

② 朝になると、宿営の周り一面に露が降りた。その一面の露が消えると、地面の上には薄く細かいものがあった。民は、それを「マナ」と名づけた。それはコエンドロの種のように、白く、その味は蜜を入れた薄焼きパンのようであった。

③ 主は、六日間マナを降らせ、六日目には二日分のマナを与えて七日目を休ませる、という生活ルールを、イスラエルの民に体験させた。これは、安息日の規定をもつ律法を授与する前に、その準備として、民に「安息（休み）」について教えるためであった。

7. イスラエルの人々③ 水の供給と襲撃者との戦い

(1) レフィディム・・・主の命により、シンの荒野を旅立ち、旅を続けてレフィディムに宿営した。しかし、そこには民の飲み水がなかった。民はモーセと争い、「われわれに飲む水を与えよ」と言った。主はモーセに言われた。「民の前を通り、イスラエルの長老たちを何人か連れて、あなたがナイル川を打ったあの杖を手に取り、そして行け。さあ、わたしはそこ、ホレブの岩の上で、あなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。岩から水が出て、民はそれを飲む。」モーセはその通りにした。このホレブの岩は、第二位格の神、受肉前のキリストであった。以降、この岩が民についてきて、荒野で宿営する民に飲み水を供給した（Iコリ 10：4）。

(2) アマレク人がイスラエルの民を襲撃してきた。この戦いを通して主は3つのことをイスラエルに教えた。①主はイスラエルと共におられる、②戦いは人の力によらず、神の助けによる、③モーセは神が選んだ指導者である

□イスラエルの人々の信仰④ 律法授与（出19章～24章13節）

1. エジプトの地を出たイスラエルの子らは、**第三の新月の日**にシナイの荒野に入った。彼らはレフィディムを旅立って、シナイの荒野に入り、その荒野で宿営した。イスラエルはそこで、**山**の前に宿営した。（出19：1～2）
 - 第三の新月の日：エジプトを出たのが、第一の月の15日。シンの荒野で食糧が尽きたのが第二の月の15日、その翌日の朝にマナが降り始めたので、7日間のサイクルを2回経験して、第三の月の新月の日（第一日）。エジプトを出てから46日経過した。
 - 山＝シナイ山（19：11）、モーセが解放者としての召命を受けた場所（出3：1「神の山ホレブ」）
2. **（山1回目）**モーセが神のみもとに上って行くと、主が山から彼を呼んで言われた。「あなたは、こうヤコブの家に言い、イスラエルの子らに告げよ。『あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを見た。今、もしあなたがたが確かにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはあらゆる民族の中であって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。』これがイスラエルの子らにあなたが語るべきことばである。」（出19：3～6）
 - 鷲の翼に乗せて・・・迅速にエジプトを出国したことを示す。第一の月の15日、一夜のうちに壮年男子だけでも約60万人、おそらく総勢200万人の民を出国させた。
3. モーセは行って、**民の長老たち**を呼び寄せ、主が命じられたこれらのことばをすべて、彼らの前に示した。民はみな口をそろえて答えた。「私たちは主の言われたことをすべて行います。」（出19：7～8a）
4. **（山2回目）**それでモーセは民のことばを携えて主のもとに帰った。主はモーセに言われた。「見よ。わたしは濃い雲の中であって、あなたに臨む。わたしがあなたに語る時、民が聞いて、あなたをいつまでも信じるためである。」それからモーセは民のことばを主に告げた。主はモーセに言われた。「あなたは民のところに行き、今日と明日、彼らを聖別し、自分たちの衣服を洗わせよ。彼らに三日目のために準備させよ。**三日目に、主が民全体の目の前でシナイ山に降りて行く**からである。あなたは民のために周囲に境を設けて言え。『山に登り、その境界に触れないように注意せよ。山に触れる者は、だれでも必ず殺されなければならない。その人に手を触れてはなら

ない。その人は必ず石で打ち殺されるか、矢で殺されなければならない。獣でも人でも、生かしておいてはならない。』雄羊の角が長く鳴り響くときは、彼らは山に登ることができる。」(出 19：8b～13)

- 今日と明日、彼らを聖別し・・・二日間、女性との性行為をしない

5. モーセは山から民のところを下りて行って、民を聖別した。彼らは自分たちの衣服を洗った。モーセは民に言った。「三日目のために準備をなさ。女に近づいてはならない。」(出 19：14～15)

6. (山のふもと) 三日目の朝、雷鳴と稲妻と厚い雲が山の上であって、角笛の音が非常に高く鳴り響いたので、宿営の中の民はみな震え上がった。モーセは、神に会わせようと、民を宿営から連れ出した。彼らは山のふもとに立った。

シナイ山は全山が煙っていた。主が火の中であって、山の上に降りて来られたからである。煙は、かまどの煙のように立ち上り、山全体が激しく震えた。

角笛の音がいよいよ高くなる中、モーセは語り、神は声を出して彼に答えられた。

主はシナイ山の頂に降りて来られた。(出 19：16～20a)

- 二重下線部は、神の臨在のしるし。主の栄光、シャカイナグローリー

- 出 24：16「主の栄光は、・・・雲」

- 出 24：17「主の栄光の現れは、イスラエルの子らの目には、山の頂を焼き尽くす火のようであった」

- 波線部、角笛の音が非常に高く鳴り響いた。「角笛の音が長く鳴り響くとき」(13節)ではないので、民は山の周囲の境を越えて山に立ち入り、登って行ってはならない

7. (山3回目) 主がモーセを山の頂に呼ばれたので、モーセは登って行った。主はモーセに言われた。「下って行って、民に警告せよ。彼らが見ようとして主の方に押し破って来て、多くの者が滅びることのないように。主に近づく祭司たちも自分自身を聖別しなければならない。主が彼らに怒りを発することのないように。」モーセは主に言った。「民はシナイ山に登ることができません。あなたご自身が私たちに警告して、『山の周りに境を設け、それを聖なるものとせよ』と言われたからです。」

主は彼に言われた。「下りて行け。そしてあなた自身はアロンと一緒に上れ。しかし、祭司たちと民は、主のところの上ろうとして押し破ってはならない。主が彼らに怒りを発することのないように。」

(出 19：20b～24)

8. (山のふもと) そこでモーセは民のところを下りて行き、彼らに告げた。それから神は次のすべてのことばを告げられた。(出 19：25～20：1)
- 出 20：2～17 十戒 (律法の一部)
- 民は全員、直接、神から十戒を告げられ、聴いた
9. 民はみな、雷鳴、稲妻、角笛の音、煙る山を目の前にしていた。民は見て身震いし、遠く離れて立っていた。彼らはモーセに言った。「あなたが私たちに語ってください。私たちは聞き従います。しかし、神が私たちにお語りになりませんように。さもないと、私たちは死んでしまいます。」
- それでモーセは民に言った。「恐れることはありません。神が来られたのは、あなたがたを試みるためです。これは、あなたがたが罪に陥らないよう、神への恐れがあなたがたに生じるためです。」(主 20：18～20)
10. 民は遠く離れて立ち、モーセは神がおられる黒雲に近づいて行った。主はモーセに言われた。「・・・【イスラエルに与えられた律法の定め】・・・」(出 20：21～23：19)
11. (引き続き、黒雲の中から主がモーセに語った：イスラエルの民への主の約束) 見よ、わたしは、使いをあなた(イスラエル)の前に遣わし、道中あなたを守り、わたしが備えた場所にあなたを導く。あなたは、その者に心を留め、その声に従いなさい。彼に逆らってはならない。わたしの名がその者のうちにあるので、彼はあなたがたの背きを赦さない。(出 23：20～21)
- 使い＝主の使い。第二位格の神、受肉前のキリストである
 - わたしの名がその者のうちにある：名は実体を示す。使いは主、神である
12. (引き続き、黒雲の中から主がモーセに語った) 主はモーセに言われた。「あなたとアロン、ナダブとアビフ、それにイスラエルの長老七十人は、主のもとへ上って来て、遠く離れて伏し拝め。モーセだけが主のもとに近づけ。ほかの者は近づいてはならない。民はモーセと一緒に上って来てはならない。」(出 24：1～2)
- ナダブとアビフ・・・アロンの息子4人のうちの、長男と次男(出 6：23)
13. (モーセは黒雲から離れて民のところへ) モーセは来て、主のすべてのことばと、すべての定めをことごとく民に告げた。すると、民はみな声を一つにして答えた。「主の言われたことはすべて行います。」
- モーセは主のすべてのことばを書き記した。(出 24：3～4a)
14. (翌朝早く、山のふもとで) モーセは翌朝早く、山のふもとに祭壇を築き、また、イスラエルの十二の部族にしたがって十二の石の柱を立てた。それから彼はイスラエル

の若者たちを遣わしたので、彼らは全焼のささげ物を献げ、また交わりのいけにえとして雄牛を主に献げた。モーセはその血の半分を取って鉢に入れ、残りの半分を祭壇に振りかけた。そして契約の書を取り、民に読んで聞かせた。彼らは言った。「主の言われたことはすべて行います。聞き従います。」モーセはその血を取って、民に振りかけ、そして言った。「見よ。これは、これらすべてのことばに基づいて、主があなたがたと結ばれる契約の血である。」(出 24：4b～8)

- この日は、第三の月の第4日。エジプトを出てからちょうど50日目

15. (山4回目、中腹まで) それからモーセとアロン、ナダブとアビフ、それにイスラエルの長老七十人は登って行った。彼らはイスラエルの神を見た。御足の下にはサファイアの敷石のようなものがあり、透き通っていて大空そのものようであった。神はイスラエルの子らのおもだった者たちに、手を下されなかった。彼らは神ご自身を見て、食べたり飲んだりした。(出 24：9～11)

- 食べたり飲んだりした・・・これは、契約の食事。契約の当事者が、契約締結を祝って食事をする。

□主は、イスラエルの民がシナイ山に来る前に、マナを通して、七日目を休むこと、すなわち「安息」について、あらかじめ民に教えました。そしてシナイ山では、まず主の栄光を民に見せて神への正しい恐れを示させたうえで、安息日の規定を含む十戒を聞かせ、さらにモーセを通して十戒以外のもろもろの律法の定めを聞かせ、モーセにそれを書かせ、あらためてそれを民の前で読ませ、最後に血の契約を締結しました。そして、長老70人を招いて、契約の食事までしてくださいました。

今も主は、私たち信者を懇切丁寧に導いてくださいます。このとき、私たちの側に必要な態度は、神への正しい恐れです。

□「神が来られたのは、あなたがたを試みるためです」(出 20：20)

「試みる」とは、私たちの日常用語としては【ためす、テストする】といった意味ですが、聖書で「試みる」というとき、その言葉の意味は、「その人の内側にあるものを表に示させる」です。

たとえば、創世記22：1で「神がアブラハムを試練にあわせられた」とあります。これはイサク奉獻の出来事ですが、アブラハムの心の中にすでにあった復活信仰を表に示させる結果となりました。今回のイスラエルの民については、彼らの中にすでに生じていた神への正しい恐れを表に示させたのが、「神が来られた」、すなわちシナイ山で神の栄光を見せるという出来事でした。

では、シナイ山に来るまでに、イスラエルの民はどのような経験を通して、神への正しい恐れを内側に持つようになったのでしょうか。これまでイスラエルの人々が経験してきたことを振り返ってみてください。